



名西郡 前田 悠作選手

「沿道の声援にかなり力をもらった」。緩やかな下りの10区(7・9キロ)で区間3位に入った名西郡チームの前田悠作選手(22)＝写真＝は徳島大医学部4年。国家試験合格を目指して猛勉強しながら、長距離走に励む「文武両道」を実践している。

走魂

区間賞の板野郡の選手とはわずか12秒差。区間順位はアンカ―で7位だった前回を上回り、思わず表情が緩んだ。

中学2年から大学受験の年を除いて毎年出場している。学業と両立できるか心配する声もあったが「駅伝を言い訳にしない

医師の卵「文武両道」実践

よう頑張った。授業は集中して聞き、テスト前は一夜漬けしたことも」と振り返る。

大学では陸上部に所属し、徳島駅伝に主眼を置いてコンディションを調整している。「いろんな世代の人と触れ合うことができ、ためになる話が聞ける。中学時代に憧れだった先輩たちと一緒に練習できるのもうれしい」と魅力を語る。チームの田中貴之監督には、中学時代に陸上部で指導を受けた恩もある。

将来は地域医療に従事したいと考えている。「徳島駅伝で南から西まで走り、温かい応援をもらったことが心に残っている」。義理人情に厚い医師の卵は、過疎地の力になろうと意欲を燃やしている。(宮本真)